

# 第1号議案 2013年度事業報告

## 1. 概要

### <この一年>

秘密保護法の閣議決定、憲法9条の解釈改憲への動きや外交姿勢など、国民の議論を待たない強権発動の感のある新政権は、一方で低迷していた経済を立て直したという評価もある。しかし東日本大震災の復興は遅れ、福島原発の処理のめどもつかず真の経済成長はまだ遠く先にある。人口減少を見越した労働者の確保のため、国の子育て支援は喫緊の課題となった。待機児童対策・認定こども園の普及、子育て支援サービスの充実を図るため、「子ども・子育て支援新制度」を策定し、地方に計画づくりがおりてきた。時間が限られているため市町村の混迷は深い。また「子どもの貧困対策法」が可決され、とくに平等な学習機会を作っていく方策が地方に求められているが、どんな方策が根本的な解決に結びついていくか長い期間で見えていく必要がある。いずれも焦点が一人一人の生きる権利の保障にあることを私たちは意識することが重要だ。

名古屋市に目を向ければ総合計画を作る一方で、市内中学で続けて起こった中学生の自殺を受け、虐待防止のNGO団体の理事が副市長になったこともあり、いじめ対策の条例が策定された。これを受け「子ども応援委員会」をモデル的に設置、ソーシャルワークの手法が学校にも適応されると予測される。また予期せぬ妊娠や飛び込み出産になってしまった人たちの支援として、医療と連携し相談員を派遣するなどして、乳幼児（妊娠期を含め）から青年期へ、切れ目のない支援策が少しずつ動き出しているように感じられる。

しかし待機児童対策や子どもの預かり先として一気に学校施設の活用が進み、トワイライトスクールの時間を延長する形でトワイライトルームの設置が広まっていくと予想される。かつて学校が地域の基地、プラットフォームとして機能することが求められたが、逆に子どもたちが一日のほとんどの時間を学校で過ごし、地域を知らず成長し、地域や多様な人々との交流なく育つのではないかとの危惧も生まれ始めている。

### <主たる事業>

名古屋市社会福祉協議会の助成を受け、最終年となった「**なごや型コネクションズモデル事業**」は、当初計画の目的であった乳幼児から青年期までの人たちのワンストップ型相談先の市民発センターへの構築にはいたらず終了した。しかし、施設としてのセンター作りはできなかったが、子どもたちが誰にも話せず悩んでいるテーマごとに相談先を紹介した冊子「だいじょうぶ?」を代替として作成、3月の作成後も問い合わせが続いている。なお、セミナーは好評で、今年度は愛知県警の少年サポートセンター職員や、触法少年の再出発支援を行っている団体、児童養護施設長を講師に日頃なかなか見聞きできない青少年支援の現場の話をうかがった。

自主事業および、子どもゆめ基金の助成として行われた「**ワンストップひろば（乳幼児と大人のひろば）**」事業は年90回を数え、親子のべ千人近い人たちの利用があった。会員団体メンバーや地域のボランティアスタッフにも支えられ、近隣だけでなくバスや地下鉄を利用して、遠くは市外からも参加した親子がおり、乳幼児を育てている人が単に「近いから」だけではなく「なにか」を求めて来ていることを証明している。その「なにか」の正体を主催している私たち自身が明らかにしていくことが大切だと感じた一年だった。

恒例となった「**支援者研修会**」の今年度テーマは、東日本大震災を教訓として、今後この地域でも間違いなく起きる災害に対して減災するための方策を仙台より講師を招いて学習した。地理学、保育・福祉、まちづくりなど多様な視点で一つのテーマをワークショップで学びあう場となり、参加者の評価の高い事業となった。

また、2012年度に開催した「**発達に障がいのある子ども・若者のための心とからだの講座**」が2014年1月より同じくファイザーホールディングの助成を受け、発展させることが可能となった。当事者の周囲にいる人たちが彼らの学習機会を作る「ファシリテーター」となるよう養成し、事業の継続・広がりを作っていくことが目標となる。このテーマは成長を実感しながら「生きる喜び」を感じ、「他者を愛し自分を愛する」ことである。障がいのあるなしにかかわらず、子ども&まちネットがミッションとして掲げる「こどもにやさしい」環境整備にも通じるものであり、事業の柱の一つとして丁寧に行いたいと考えている。

<そのほかの事業。他団体との協働など>

今や子ども&まちネットの定番事業となった「こどものまち」では、主催事業として「チャレンジタウン」を大和学区学童保育所施設の一角をお借りして行ったほか、名古屋市主催の「なごや子どもシティ・ナノ」への企画委員団体として参加、また名古屋フィルハーモニーをはじめとする市民からの寄付により、市民発の大規模なこどものまち事業のプロジェクトづくりのための視察などを行った。

2011年度より名古屋工業大学北川研究室との共同研究「こどもにやさしいまちづくり」事業の一環として、事業に関する書籍を所蔵し学生への閲覧場所として整備して来た「ラボ」は、一定の成果を挙げたとして2014年3月に閉鎖し、書籍・資料、本棚などは、ワンストップひろば内と、希望する学生、支援団体に頒布した。

<子まちとして行政関連で参加している委員等>

名古屋市なごや子ども・子育て支援協議会委員、同子どもの参画推進事業企画委員、同市民活動推進協議会委員、大府市青少年問題協議会委員【以上伊藤】

#### 【会員の状況】

正会員 個人：48人、団体：5団体（昨年度個人：55人、団体：6団体）  
情報会員 個人：6人、団体：1団体（昨年度個人：6人、団体：1団体）  
賛助会員 個人：7人、団体：1団体（昨年度個人：4人、団体：1団体）  
合計 61人と7団体（昨年度65人と8団体）

## 2. 事業の実施に関する事項

※文中敬称略、事業スタッフのうち下線は理事

### （1）特定非営利活動に係る事業

#### ① 「こどもにやさしいまちづくり」のための手法開発と普及、支援、政策提言事業（主な事業）

- 「なごや型コネクションズモデル事業」（名古屋市社会福祉協議会「地域福祉リーディング事業」助成）

実施期間：平成23年4月から平成26年3月までの3年間

内 容：英国の『コネクションズ』を参考に名古屋でも同様のワンストップ型の相談拠点を作れないか模索する事業の3ヶ年事業の3年目。①フォーラム・講座の開催 ②子ども向け冊子の作製と配布を行った。

事業スタッフ：NPO関係者（青野桐子氏（NPO法人こどもNPO）、新田泉氏（NPO法人子育てなごや）、平田幸恵氏（キャリアリーフ）、高橋弘恵氏（NPO法人チャイルドラインあいち）、障がいのある子どもの父母のネットワーク愛知、伊藤・田中・奥田・水野。

- 「みんなでつくるチャレンジタウン事業」（名古屋市社会福祉協議会助成）

開催期間：平成25年10月12日（準備日）、13日～14日（本番）

内 容：例年行っている「こどものまち」事業。今年度は大和学童保育所「ももたろう」が入居する「うたの森」ホールをお借りし行った（参加人数のべ53人、うち障がいのある子どものべ5人）。

事業スタッフ：（田中・伊藤・水野、西村、武内、障がいのある子どもの父母のネットワークあいちおよびMICスタッフ）、大学生ボランティア

- 「若者プロデュース これが名古屋の若者イベント」（名古屋市委託事業）

実施日時：平成26年1月から平成26年3月まで

実施場所と内容：名古屋市青少年交流プラザの委託事業の最後を飾る形で受託。名古屋らしさを意識した「イベント」づくりを若者の視点でアイデアを創出し具体的な企画に作り上げてみようという趣旨で行った。3回のワークショップを行ったあと（平均15人）、プレゼンを練り、4回目はユースクエアまるごとフェスタの一角で行われ、100人以上の聴衆を前に参加者が企画を発表した。

事業スタッフ：（小島紫・西村・白川・伊藤）

○「名古屋市青少年交流プラザ」指定管理

実施日時：平成26年4月から平成29年3月まで

実施場所と内容：名古屋ユースクエア共同事業体N I K（(公財)名古屋市教育スポーツ協会、NPO 法人 ICDS

と

のコンソーシアム)を組み、3年間の指定管理業務を請け負うことになった。

収入：2,152,522円/支出：1,795,548円(家賃、光熱費、コピーリース代などランニングコストを含まず。以下同様)

② 子ども・子育て・まちづくりに関する情報収集と発信事業

(主な事業)

○「なごや子ども白書(仮)づくり研究会」

実施日時：平成25年5月から平成26年4月まで

実施場所と内容：名古屋市立大学人文学部藤田栄史教授と共に、研究室にて市内公立保育所園長、社会福祉士、教員、キャリアコンサルタント、研究者らをメンバーとして、おおむね月1回のペースで活動者を招き学習会を重ねた。また2013年度より会員から寄付を募り2014年度中には書籍にまとめる予定。

事業スタッフ：(奥田・安藤・鬼頭・伊藤・湧井)

○会報「こまち通信」発行(年3回。平成25年7月、平成25年11月、平成26年3月)

○出版物、報告書・記録集等の頒布、ホームページ運営管理

○メールリングリスト書き込み数(5月～4月)47回(昨年度：96回)

収入：10,700円/支出：131,078円

③ 子ども・子育て・まちづくりに関わる人々のネットワークづくり、コーディネート事業

(主な事業)

○ワンストップひろば

実施日時：平成25年5月～平成26年3月の祝日や別事業のある日を除く月曜・水曜に開催

内 容：地域の乳幼児とその保護者が、ひろばスペースでおもちゃや絵本で自由に遊んだり、ボランティアスタッフ・外部講師提供のプログラム(手形足形をとる、絵本を楽しむ、新聞紙プール、ダンボールでおうちづくり、スクラップブック、アロマテラピーなど)を体験して過ごした。年間92日開催し、利用者は子ども490人、大人444人だった。

○ひろば施設の改善(愛恵福祉財団助成)

実施日時：平成25年12月から平成25年3月まで

実施場所と内容：ワンストップひろばでの利用や、事業4「心とからだの講座」で切望されていた折りたたみ式ダイニングテーブルとロールスクリーンの購入資金を財団よりいただき整備することができた。

収入：798,671円/支出：1,057,679円

④ 1)から3)に関する研修・養成等企画運営事業

(主な事業)

○「支援者研修会」(こども未来財団共催)

実施日時：平成25年9月から平成26年1月まで。研修日は2013(平成25)年12月9日に開催。

実施場所と内容：講師に仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」館長の伊藤千佐子氏、信州大学教育学部の廣内大助氏、NPO法人子育てなごや・新田泉氏、南区笠東学区主任児童委員・山田一枝氏を招へいし、本法人理事の富山大学人文学部・大西宏治とともに、「そのとき子育て支援者は～災害時の支援拠点の機能と、支援者の役割を考える」をテーマに研修会を行った。会場は名古屋市子ども・子育て支援センター。終了後、講演録を冊子に作成し、会員はじめ関係者、希望者、および子育て拠点を持つ団体等へ配布した。

事業スタッフ：(大西、奥田・伊藤・田中・小島、水野千鶴)

○「発達に障がいのある子ども・若者のための心とからだの講座」(ファイザーホールディング助成)

実施日時：平成26年1月から平成26年12月まで

実施場所と内容：(平成26年1月から4月分)日本福祉大学木全和日教授、伊藤修毅准教授を中心に、教員、市内福祉サービス事業所職員らとファシリテーター養成講座のための企画づくり会議を行った。

事業スタッフ：(田中・伊藤、戸谷、父母ネットメンバー)

収入：576,000円/支出：476,436円

### 3. 会議の開催に関する事項

#### (1) 総会

##### 通常総会

##### 1、開催日および場所

平成25年6月9日 午前11時～午前11時45分/場所 中京大学名古屋キャンパス

##### 2、議題

- 第1号議案 2012年度事業報告の承認について
- 第2号議案 2012年度事業決算の承認について
- 第3号議案 2013年度事業計画の議決について
- 第4号議案 2013年度予算の議決について
- 第5号議案 会員会費の議決について
- 第6号議案 新監事の選任について

#### (2) 理事会

##### 第1回 理事会

##### 1、開催日および場所

平成25年6月9日 午前10時30分～午前11時/場所 中京大学名古屋キャンパス

##### 2、議題

- 第1号議案 平成25(2013)年度総会の議案の確認
- 第2号議案 監事の辞任及び選任(案)について
- 第3号議案 そのほか

##### 第2回 理事会

##### 1、開催日および場所

平成25年8月5日 午後6時30分～午後7時30分/場所 111 こどもプロジェクト

##### 2、議題

- 第1号議案 今年度事業の進捗について
- 第2号議案 ユースクエアの指定管理について
- 第3号議案 白書づくりについて
- 第4号議案 そのほか

##### 第3回 理事会

##### 1、開催日および場所

平成25年3月9日 午後7時15分～午後8時30分/場所 111 こどもプロジェクト

##### 2、議題

- 第1号議案 今年度事業の進捗について
- 第2号議案 ユースクエアの指定管理について
- 第3号議案 白書づくりについて
- 第4号議案 ひろば運営について
- 第5号議案 そのほか

##### 第4回 理事会

##### 1、開催日および場所

平成26年4月7日 午後7時～午後8時/場所 111 こどもプロジェクト

##### 2、議題

- 第1号議案 今年度事業の進捗について
- 第2号議案 次年度事業について事業申請など
- 第3号議案 そのほか

